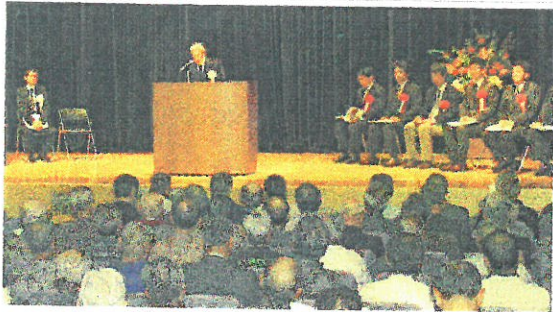


農村環境の未来を考える 山口で研修会 農業者ら千人

農村環境の未来を考える研修会が16日、山口市吉敷下東の県総合保健会館であり、県内各地の農業者や自治会関係者ら約千人が参加したII写真。県日本型直接支払推進協議会（吹田悞会長）主催。

吹田会長はあいさつで「農村地域の現状は過疎化、高齢化、後継者不足が進行し、農業・農村の有する多面的機能の維持が困難な状況。多面的機能支払交付金は農業・農村の持続的發展を図る上で効果のある事業なので、今後もこれまで以上に積極的な取り組みをお願いする」と呼び掛けた。

中国四国農政局長の坂井康宏さんが土地改良の情勢を報告。農林水産業・地域の



の活力創造プランや、農村の多面的機能の維持・発揮を図るための日本型直接支払制度の政策的な位置付け、2020年度までを期間とする新たな土地改良長期計画のポイントなどを解説した。

事例発表では長門市農林課耕地係長の市川裕之さんが「活動組織の広域化推進について」、周南市向道環境保全会代表の井上正幸さんが「ふるさと彩生ノシバザクラが咲いてみんな元気になった」と題して取り組みを説明。地域文化フリーライターの石井里津子さんによる講演もあった。